

2月27日の米国株式市場について

新型コロナウイルスへの懸念重なる、日本株には割安感も

2020年2月28日

主要指数が4%を超える下落に

2020年2月27日（現地）、の米国株式市場はNYダウ、S&P500、ナスダック総合の主要3指数がいずれも4%を超える下落になりました。下落の主因は新型コロナウイルスへの懸念ですが、以下のような要因が複合することで、下落が加速したとみられます。

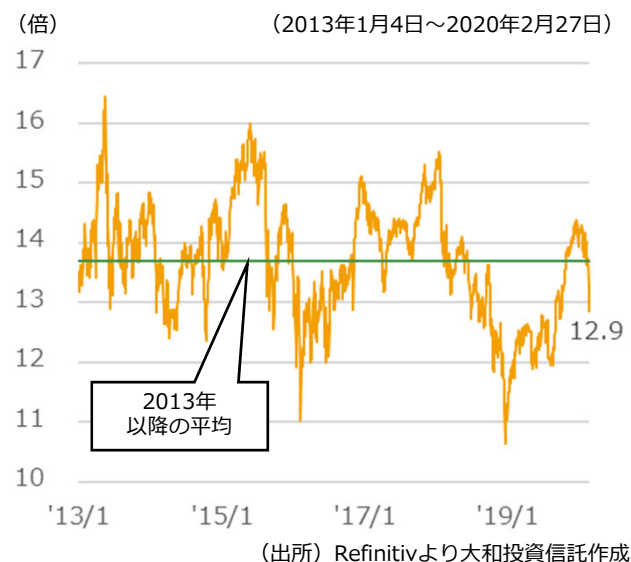
- 米国でも新たな感染者が発生するなど、中国以外での感染拡大への懸念が強まったこと
- WHO（世界保健機関）によるパンデミック（世界的な大流行）の可能性への言及を受け、投資家の不安がより高まったとみられること
- 新型コロナウイルスの影響で、アップルに続きマイクロソフトが1-3月期売上高の下振れを発表したため、業績への懸念が広がったこと
- NYダウが2月12日の最高値から10%を超える下落となり、下降トレンドへの転換懸念から売りを急ぐ投資家が多くなったとみられること

今後に関しては、引き続き中国以外での感染者数の増加ベースがいつ鈍化してくるのかに注目しています。今のところ、3月中にそのような状況が表れてくると想定しています。日本株に関しては、PER（株価収益率）やPBR（株価純資産倍率）などの指標でみて割安感が強まりつつあることから、下値余地は小さくなってきていると考えています。

NYダウの推移



TOPIXのPER（12カ月予想ベース）



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。